

新学習指導要領におけるアイヌの人たちの歴史・文化等に関する内容の位置付け

北海道は古くからアイヌの人たちの居住地であり、数多くのアイヌ語に由来する地名やアイヌ民族文化遺産があります。北海道の歴史や文化は、この地域に生きた人たちによってつくられたものです。北海道について学習する場合には、アイヌの人たちの歴史や文化等を除いて考えることはできません。学校教育においては、アイヌの人たちの歴史や文化等について正しい理解を図るために、地域や学校の実態及び子どもの発達段階を考慮して適切に指導を行うことが大切です。

新学習指導要領における取扱い

新学習指導要領においては、アイヌの人たちの歴史・文化等に関する内容は、次のように記述されています。

中学校社会〔歴史的分野〕

- 2 内容 (4) 近世の日本 イ
江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子、鎖国下の対外関係などを通して、江戸幕府の政治の特色を考えさせ、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。
- 3 内容の取扱い (5) イ
イの「鎖国下の対外関係」については、オランダ、中国との交易のほか、朝鮮との交流や琉球の役割、北方との交易をしていたアイヌについて取り扱うようにすること。(後略)

上記のほか、小学校第3・4学年の社会、中学校社会(公民的分野)、小・中学校の道徳の時間、特別活動や総合的な学習の時間などで取り扱うことが考えられます。指導に当たっては、副読本や地域の教育資源(自然・人材・施設等)を効果的に活用することが大切です。

小学校第6学年社会科及び中学校社会科(地理的分野、歴史的分野、公民的分野)において、道内で使用されているすべての教科書にアイヌの人たちにかかわる内容が記述されています。

北海道教育推進計画における位置付け

北海道教育委員会では、平成20年3月に策定した「北海道教育推進計画」において、ふるさと教育の充実の施策として、アイヌの人たちの歴史や文化等にかかわる教育の充実を掲げています。

平成20～22年度には、「北の大地に根ざした豊かな学び推進事業」を実施し、アイヌの人たちの歴史・文化等に関する学習の計画的・継続的な実施に向けた総合的な学習の時間のプログラムの開発などの実践研究をとおしてふるさと北海道への理解を深め、郷土を愛する心をはぐくむこととしています。

参考：北海道教育推進計画

基本目標1「社会で生きる実践的な力の育成」

基本方向2「社会の変化に対応し、新しい時代を切り拓く力を育む教育の推進」

項目4 「ふるさと教育の充実」

ホームページ <http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ksk/suisinkeikakukaisaiannnai.htm>

【出典】 『中学校学習指導要領』(平成20年3月告示)文部科学省

『北海道教育推進計画(第四次北海道教育長期総合計画)』(平成20年3月)北海道教育委員会

アイヌのものがたりの紹介

～今回は、ものがたり(絵本)を紹介します。～

(財)アイヌ文化振興・研究推進機構では、アイヌの人たちの伝統や文化を多くの人々に伝えるために、絵本をつくっています。ホームページで見るともできます。



カラスとカケスの物語

ちいさなくまのカムイのおはなし

ヘカッタラ シノツ
(こどもたちのあそび)

次のアドレスから見るができます。

http://www.frpac.or.jp/kodomo/flash/ehon/ehon_main.html

釧路教育局では、「アイヌの人たちの歴史と文化等に関する教育」の指導の在り方に係る研修事業の概要について、教育局ホームページに掲載し、各学校や保護者等に情報提供しています。

平成20年度初任者研修地域研修「アイヌの人たちの歴史と文化」

説明 「アイヌの人たちの歴史と文化」
北海道教育庁義務教育課アイヌ相談員

北海道は古くから、アイヌの人たちの居住地であり、北海道の歴史と文化は、アイヌの人たちの歴史と文化を抜きにして考えることはできないことや、1997年に「アイヌ文化振興法」が制定されたことから、学校教育において、アイヌの人たちに関する学習が重要性を増していることの説明がありました。

各学校に配付されているDVD「イランカラプテ こんにちは アイヌ文化」を視聴しました。

このDVDは、

アイヌ文化が過去から現在に至るまでどのように継承されてきたか。

今どのような活動をさらに広げようとしているか。

アイヌ民族の自然観や信仰など

について、30分程度にわかりやすくまとめたものです。

説明 「アイヌの人たちの歴史と文化等に関する指導上の留意点」
釧路教育局義務教育指導班

ピラサ（アイヌ語で「広げる」の意味で、道教委がホームページに掲載しているアイヌの人たちの歴史と文化等に関する啓発資料）の第1号から第8号までを紹介しました。

例えば、「昔、住んでいました。」のようにアイヌの人たちが過去の人たちであるような誤解を招かないようにすることや、小学校中学年においては、アイヌ文化等に関する興味・関心を高めることに重点を置いて、歌や踊り、アイヌ語や地名等を題材とするなど、発達の段階に応じた適切な指導に努めることを確認しました。

実技 「アイヌの人たちの文化の理解」
白糠アイヌ文化保存会

「アイヌ語による自己紹介の仕方」や「アイヌ語の地名」などについて、わかりやすく説明をしていただきました。

「ムックリ」の演奏の練習、「座り歌」の合唱などを体験し、アイヌの人たちの文化に触れることができました。

指定事業「北の大地に根ざした豊かな学び推進事業（アイヌの人たちの歴史・文化等に関する学習）」（白糠町）の取組への支援

「北の大地に根ざした豊かな学び推進事業」は、今年度から、3か年計画で、小・中学校の総合的な学習の時間において、北方領土やアイヌの人たちの歴史・文化等の北海道の特色を生かす指導の在り方についての実践研究を行うものです。

釧路教育局では、白糠町教育委員会・白糠小学校・白糠中学校と連携を図りながら、アイヌの人たちの歴史・文化等に関する教育」をテーマに、小・中学校間の接続に配慮した一貫性のある指導計画の作成の支援に努めています。

学校名	学年	単元名
白糠小学校	第3学年	「アイヌ文化にふれよう」
	第4学年	「アイヌ文化を知ろう」
	第5学年	「アイヌ文化を調べよう」
	第6学年	「アイヌ文化を究めよう」
白糠中学校	第1学年	「アイヌの人たちの歴史と文化～小学校の学習から考える～」
	第2学年	「アイヌの人たちの歴史と文化～歴史から考える～」
	第3学年	「アイヌの人たちの歴史と文化～人権問題から考える～」



小学校社会科副読本におけるアイヌの人たちの歴史・文化等に関する記述例の紹介 ～各市町村作成の小学校社会科副読本の記述から～

「わたしたちの町 にいかっぷ」（新冠町教育委員会）では、北海道の地名を理解する上での基本的なことが、次のように、わかりやすく記述されています。

北海道の市町村名やそれぞれの地名をみると「別」「内」「幌」という字が多いのに気がつくと思います。これらはもともと、北海道のアイヌの人たちのよび名に、あとから漢字を当てはめたものだからです。「ベツ」や「ナイ」は“川”や“沢”という意味で、「ホロ・ポロ」は“大きいとか”“広い”という意味です。